

Q28

## 出血性膀胱炎といわれたら どうしたらいいですか？

出血性膀胱炎は出血を伴って発症する膀胱の炎症で、ウイルス、細菌、薬剤、放射線などが原因となります。薬剤が原因で起こるものは抗がん薬、免疫抑制薬、抗アレルギー薬が以前より知られており、抗生物質、漢方薬などでも起こることがあります。

主な症状としては、尿意が増すことによる尿回数の増加（頻尿）、排尿時の痛み、尿の残っている感じ（残尿感）、血尿がみられます。軽症では肉眼ではわからない程度の顕微鏡的血尿、中等症では肉眼的血尿、重症では血のかたまりがみられるようになります。

抗がん薬ではシクロホスファミド（商品名エンドキサン）やイホスファミド（商品名イホマイド）が出血性膀胱炎を起こすことが知られています。これらの薬の代謝産物であるアロクレイン等が尿中に排泄され膀胱粘膜を障害して起こるとされています。大量に点滴した場合に、予防しなければ40～60%で起こっていたとの報告もありますので、次のように予防することが必要です。

たくさんのおしっこを出すことが大切となります。シクロホスファミドやイホスファミドを点滴するときは、できるだけこまめに多めの

水分を取り、おしっかもがまんせずに出すようにします。お薬を投与した翌日まで1日のおしっこの量が3リットル以上になるようにします。水分を大量に飲むことは大変ですので、2～3リットルの水分を点滴することで補います。多くのおしっこを出すことで炎症を起こす成分（アロクレイン等）を薄まった状態で体の外へ出すことが肝心となります。寝る前は必ずおしっこを出し、夜間も尿意を感じたらがまんせずに出すようにしましょう。また、炎症を起こす成分（アロクレイン等）の作用を弱めるために、抗がん剤を投与する時と投与後数時間毎にメスナ（商品名ウロミテキサン）を投与することもあります。

予防方法もわかり、出血性膀胱炎の起こることは減ってはきましたが、初めに書きましたような症状がありましたら、医療スタッフへお知らせください。症状にあった治療法を泌尿器科医などの専門医に相談することになります。血液のかたまりが膀胱内にある場合はカテーテルを用いて膀胱を洗ったりするような処置が必要となることもありますので、何より予防が大切です。（児島強）

### 【参考文献】

1) 厚生労働省：重篤副作用疾患別対応マニュアル